



これが



中国だ。

福島 鏡

これが中国だ。

---

“上海余話 高齢者に気をつける !”

「高齢者の転倒を目撃しても、あわてて助け起こしてはならない」。中国衛生省が最近公表したガイドラインの一文だ。心臓や呼吸の状態などによっては、むやみに動かすとかえって事態を悪化させるとして、慎重な対応を求めている。ところが、広東省で起きたある“事件”で、このガイドラインがにわかに脚光を浴びることになった。

報道によると、男性が自転車で通りかかった路地に高齢者（男女不明）が倒れ込んでいるのをみつけ、救急車を呼び病院まで付き添った。ところが駆けつけた家族が「おまえが自転車をぶつけて倒したんだろう」と逆に男性をなじり、治療費として3千元（約3万6千円）を払わせたという。

事情を聞いた男性の同僚らが目撃者を捜して証言を得て、家族から3千元を取り戻すことに成功したのだが、中国のインターネットでは、衛生省のくだんのガイドラインを取り上げ、「政府もたまには良いことを言う」とする妙な解釈も流布された。

聞けば、中国では突然倒れた高齢者自身が、助けてくれた若者に「おまえが私を突き飛ばした」などと大声でわめきちらし、被害者を装ってはカネをせびる問題が横行しているのだという。医学的見地から出されたガイドラインだが、その実、“本質”を突いていたのかも……。 (河崎真澄)

2011. 10. 4. 産経新聞より

この記事を読んだ日本人がどんな反応を示したのか、知りたいものだ。そんな馬鹿な、と日本ではあり得ないような事件に他人事だと一笑に付するのか、世界はこんなにも違うのか、と日本人のモノサシだけでは世界に通用しないことを学ぶのか。それとも正しいことは話せばわかる、と日本的正しさを信じるのだろうか。そうでなければ、教育や文化、歴史の違いなどの知識から中国人の民族性や人間性を見つめて冷静にこの事を自分なりに判断できるだろうか。

世界を知るため、世界の人々を相手に世界に通用する日本人を育成するためにも、この記事は日本の教科書にも取り上げてもらいたいほど貴重な問題を日本人に投げかけている。

世界で何が起きているのかも知らず、2002年新婚旅行でイスラエルとパレスティナが対峙しているベツレヘム生誕教会を見物にタクシーで乗りつけ、 戦闘のただ中へ歩いて行った日本人は正常な人間の思考とも思えないが、知らなかったで済まされる問題でもない。

2004年あの自己責任で突き上げられたイラク戦争の最中に人助けのボランティアで飛び込んで行った幾人かの若い日本人男女もしかりである。

日本ほど平和な国は世界にはない。日本ほど自由（自分勝手）な国も世界にはない。日本人ほどに素直で汚されていない民族も世界には稀である。

この記事は世界の国々で起こる日常的な事件や問題に、島国的な視野ではなく世界的な視野で対処するために考えなくてはならない事柄の一つである。大陸的な又は歴史上幾多の侵略を経験した国民

や民族が政治や教育の違いから個人が個人を守るための処世なのかもしれない。

先に記した記事を読んで、これと類似した事件に心当たりのあるような出来事を思い出しませんか。

昨年2010年に起こった尖閣諸島中国漁船衝突事件の領海侵犯、中国政府による尖閣諸島中国領論。最初に記した記事は中国人民（大衆）レベルによる強硬（強引）論であり、尖閣問題は国家（政府）レベルによる中国（中国人）の強行（強引）論である。海底資源調査が行われるまでの歴史的経緯では中国の新聞（人民日報）さえも認める日本国領土である。が、それが1968年の海底資源調査で海底資源埋蔵が発表されるや、中国と台湾が領有権を主張し始め、1971年2月にはアメリカ在住の中国人留学生が尖閣諸島は中国固有の領土であると反日デモをした。

国と国の関係はそのつど国益と利害関係で、また軍事的優位性により主張と態度が一変する。正義も善悪さえもそうになってしまう。

国が違えば“人を助ける”“小さな親切”“人を思い遣る心”が災難となり、加害者へと変わる。こんな馬鹿なことがまかり通る国も国民もあるのである。ということを日本人は知らなければならない。

それにもう一つ。他国の人間は、日本人が想像する以上に自分の生まれた国、民族・人種に誇りと自信を持っている。外国や異国に出て日本人ほど、日本と日本人についての誇りと認識を自覚していない国民もいないように思われてならない。それは、あまりにも自国の歴史と世界の歴史に関心がないのと希薄なことが関係しているように思われる。

外国に長年住んでいると、日本人は日本人の間では個性と個人を表に出したりするが、外国人の中にとくとくとどこにいるのかもわからないほど霞んだ存在である。日本人は日本人としてまとまるよりは、何かの繋がりやグループを形成する。それは大会社のエリート意識だったり、成功した日本人の集まりだったりする。しかし、中国人にしるベトナム人にしる韓国人にしる、彼らは自国民のための大きな社会を形成している。彼らはお互いに情報を交換して自国民あるいは民族間の地位向上を目指して助け合っている。日本人にはそれが見受けられない。自分のことは自分でしろなのか、あなたのことは関係ない、という個人主義の延長なのか、私にはわからない。

そして、それが顕著に表れるのが仕事でも国家間の争いごとでも民族が関係すれば、善悪の関係は二の次で、外敵に向かって一致団結して向ってくる。日本人は話せばわかると思うかもしれないが、そうではないときのほうが多い。相手を尊重して控え目に出る日本人の高レベルの礼儀正しさは、一握りの高潔な素養を身につけている外国人には通用しても、普通一般の人々には通用しない。むしろ初対面のときは、警戒されたり、疑心暗鬼の目を向けられるのが当たり前である

。(余談ではあるが、世界でも人を疑うことを知らない日本人女性の中には、初対面の“Hi, honey !、 You so beautiful.、 I love you.でころりと相手に全てを委ねてしまう女性がいるが、外国人の女性は、初対面でこんな言葉を信じる女性はいない。冗談としては悪くはないが、本気だったら気が狂っている、と思われる。あくまでも初対面の場合である。)

悲しいかな正しいのは善悪ではなく、どんなことをしてでも手に入れようとしている人々なのだ。何事においても、手に入れようと計画した人々に負けると、残酷と悲惨が待ち受けている。世界にはそういう国があり、そういう人々がいることを知らねばならない。それでも、黙認や控え目な態度は相手を勢いづけたり自分や自国を弱く見せるだけで、測り知れない損失があっても得するものは何もない。それどころか、気が付けば血祭りにされてしまう。

民間（大衆）レベルではその国の法律があるから書かないが、国家間レベルではどんな大儀があっても、戦に勝ったほうが正義になる。歴史が教えているではありませんか。

要は、日本国民の一人ひとりが関心があろうがなかろうが、今や世界は、日本人ならばだれでもが手の届く所にある時代になった。その時代に自分を守るために、家族を守るために、日本を守るために、

正しいことを主張できる能力と知力と力が必要である、ということです。昨今の日本の政治を動かす政治家に、能力、知力、力、胆力を併せ持つ政治家がないことが嘆かわしい。